

福總新聞

(毎月廿五) 二回
定價 郵費五厘
廣告料 場所指定十銭増
發行所 福總新聞社
市島範三

常磐炭礦一巡記(一)

炭礦の旺盛は吾等の旺盛である

故に需用期に入らんとし一層の活氣付いた喜顔を見る秋、亦吾等も喜んで炭礦益々盛んなれと祈願して筆を執ることの決して偶然ではないのである。

磐城炭礦

石城郡内郷村に龐大なる炭礦を有し其の採炭、出炭の點に於て最も首位を占むると同時に炭質の優良なることも裏書されてゐること周知の事實である。故に引續く不況なる時代に直而して各營業者共に最も憂慮措かなかつた。一層重大なりしにも不拘然、彼れ迄の成績を維持した事は斯業界一般の驚異の的ともなり、亦羨望の的もなつた。

負けし魂の日吉丸は

榮えある小田氏の奮闘は立志傳中に輝く

犠牲であり堅忍である氏の一面は之

それは前述の通り炭質の優良なる點を主にすべきも營業に忠實であつた就業員全体の努力の進んである點を厚く買てやらねばなるまい。次いで今や「炭」の需用期に入ると同時に流れつた不況の潮流も漸く方向轉換期の曙光を認むとして再活再生再盛の機運は至らんとす。

はリスク

目五町平 局藥邊野山
……る 限に……

十九才

から各地を標白して有りとする困苦と奮闘を續けたのが何一つとして氏の満才感に入るものがなかつた斯して居る内に氏は水澤銅山、秋田松岡銀山、院内銀山等に活動して坑内生活の体験は充分に練磨されたのである。而して活眼慧識なる氏は此の体験をして最も有意義ならしめんとして

常磐炭界

に着眼した事が成功の糸口であつた。廿五才の時職を隅田川炭礦に測量技手として勤むることとなり後、獨立の熱情止み難く好問炭礦の一部を借り受け確固たる信念により奮闘を續けて居る内大正四五年の工業勃興と共に迅速の活動は報いられて今日の大成功を修め得たのである

從業員に感激を

與へる

親みと平和氣分を

満つる隅田川、津川の兩

炭礦は一つに氏が社長振

大將といふ呼名を使はして

の社長といふと何んとな

其所にブルジョア的階級を隔れてゐる、従つて労働能率級の隔りを持つが大将と云に大なる影響を與へ豫期にいはば假令階級であつたにせよ其の成果を収める事が出来よ其所に親みが持たれる其ののであつて小田氏個人經營所迄に氏は細い氣を配つて營の炭礦は常に平和的に他ることは常人の企及を許さないのである。亦何に珍らしきものでも到来すれば周知の如く義侠心の凝結者として公共事業慈善のため

努力者 佐藤留藏氏

堅實で浪花炭礦の名聲をなした

何人も好きだと云ふ

小田炭礦々主 萩原申八氏

杉山今朝吉氏

繁榮を見る偶然事でない

ホケツトを見よ

繁榮を見る偶然事でない

錦水

電話四番

人物としての氏は

才氣は如何なる訪問者が同

人物としての氏は

才氣は如何なる訪問者が同

人物としての氏は

才氣は如何なる訪問者が同

人物としての氏は

才氣は如何なる訪問者が同

人物としての氏は

才氣は如何なる訪問者が同

直に町民の父としての

町長 青沼鋒太郎氏

青沼鋒太郎氏は平藩の士四十一本郷に入り東白川族で平信用組合長、産業組郡長に任ぜられ四十二年十月合石城部會長、平安會長の月から耶麻郡に大正二年八月要職に在り、所得調査員を月には石城郡長として五年七月も勤め町會議員を二期年を勤め大正七年五月伊達勤めてゐる。今年六十六才郡に轉じ同十月官職を辭して永年郡長生活を續けて來て磐城炭礦に入り事務部長た押しも押されぬ立派として敏腕を揮ひ九ヶ年間な人物である。慶應三年十の炭礦生活を經て昭和二年月平町揚土に青沼博學氏の十月退社昭和四年三月平信長男として生れ明治十五年用組合長に推され今日に至年十六才で代用教員となりつた。

同二十一年十月當時の福島晩年になつて町民の輿望を始審裁判所の書記に任ぜられ一身に擔つて町長として繼れ二十七年福島監獄の看守 著せる氏の手腕のもとに大長となり、三十年十月には平町建設のため努力を致さ長野縣警部に登用され三十に至つた吾等は同町長となる、次いで三十八年七月の卓越せる認識と手腕に多月同郡和賀郡長に拔擢され大の敬信を拂ふ所以である。

人格崇高の

所長 高階一郎氏

五十嵐炭礦不動澤鑛業所
「山高きが故に尊かず木有るの蘊蓄せる体験によつてを以つて貴しとす」とは彼の優勢振りを示し亦最も支那の大哲の教へであるが信用すべき礦山として確認實に立派な穿つた言葉であせらるに至つた、思ひ見よ斯うした言葉のまゝの所有而して此の成功を贏ち得て者に高階一郎氏がある。氏所長として今日に及んで居る風貌を見よ、氏の人格を知るが、決して奢る處なく彼見よ、氏の礦山業に於けるの謹嚴にして始終終身の努力卓越せる手腕と識見とは恐力に生んとしてゐる。實にらく常磐炭界の第一人者で斯界中稀に見る人材としてあらふ。而して今や礦主五賞賛するに餘りあるもので十嵐氏の女房役として逐年ある。

本社及び主催 茸狩りの記

本社が秋晴れの日を樂獲物の話、さてはいろいろむべく白岩に松茸狩の催をの雜誌中に惹なく目的の山行つた。當日は秋晴れの日に付く。

に背かず一點の黒雲もなく 暫時休憩後いざ山に入つ赤蜻蛉は愉快げに吾等の一てからが面白い、彼方でも行を山へ送るべく交飛するオーイ此んなのが取れたと朝九時半前前に集合本社のおひも若きも松茸を差上げて催しに盡力された町議國府は得意に呼び交はしてゐる田直良氏平料理組合の世話實に此の日此時だけの無心役「のんき亭、壽々木亭、や純遊さは何んとも言ひ得三益」の主人公等主催者側なかつた。中食迄には各々になり變つて一行四十名餘相當の獲物があつたのでおの人々を我事のように應待互の獲物を覗きながら持参してきてゐる事など嬉し平窪松吉屋の銘酒と、焚かつた。臈がて自動車上のき立ての松茸めしに舌鼓を人となるや嬉々として先づ打つ。此の間同行者の藝妓

感じのよい

小原良武氏

面識の場合感じのよい事ひ一般取引者の信用も頗るは其の人々に最も好感と結厚くあつた。要するに銀行行と村長として實に耻かしからざる人格識見の所有者である。尙更らに銀行員等に於て然る人である處に一種云ふべからざる預金者として信用なるが故を周知し居るがた丹治のため誠に慶賀に堪え田豊氏の精勵あるありて一

松茸狩後援者へ御禮ないのである。敢へ云ふ剛として必ずや大成するであ福島農工銀行平支店腹で鳴つた山田氏と順柔でらふ。常磐銀行平支店あつた監査森氏との中庸人物

七十七銀行平支店
松吉屋酒造店
白萩酒造店
玉川酒造店
大竹酒造店
木澤常松殿
萩原申八殿
田邊機械店

我大平町の柱石人物として
常に町民よりの信望を双肩に擔ふ
二世 諸橋久太郎氏

腹中大海の如く
物なるに敬仰の念頻りなる

名村長を得た赤井村民の喜び
人格識見兼備へたる
松本金治氏

石城郡赤井村は相當大村層申分なきこととして將來であるだけに種々なる情實を尤も機待されてゐる。其他の村として迂曲曲折に苦んでゐるが、松本金治氏が村長として就職するに及んで村民は總てが安堵の思ひをなすと共に村内は和氣あいゝの氣に満ちてゐる事は誠に結構である

湯温泉案内

木根村屋
山根村屋
つた屋
富士屋
向いすや
いわきや
春美屋
錦美屋

東北本線金谷川驛、松川驛、福島驛より乗合自動車あり

東北の名湯案内

あかんぼうのできるゆ
羽前 五色温泉
山形縣板谷 宗川 旅館
奥羽線板谷驛より三十町以内

ぬる湯温泉
脳病と眼病、効著し
痲病、梅毒、腫物、火傷、創傷、子宮病、皮膚病等に好し
福島より西南四里、奥羽線庭坂驛より二里
福島縣信夫郡水保村
當温泉は親切 館主 一一階堂伊藏
可嚀を旨とす

東北の名湯
高湯温泉(岩代郡)
客室 玉子湯旅館
増築落成 後藤寅治
福島より西四里奥羽線庭坂驛より二里自動車の便あり
◇吾妻の山腹にありて眺望佳良なり
◇弊館は萬事に注意し毫末も不便なき様親切丁寧を本意とす
◇福島市より乗合自動車の便あり

内科一般(平町新川端(釜屋新宅向))
電話五〇二番
難波醫院
醫學博士 難波睦

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
諸橋久太郎
平五 電話九番九九番
三井生命保險株式會社代理店